

銀賞

文学部 現代社会学科 3年

清野理子さん

『バイバイ、ブラックバード』／伊坂幸太郎著／双葉社

正直者は馬鹿を見る。この言葉が自分の中で腫瘍のような、嫌な存在感を持ったのはいつからだろうか。いつだって正しいことをしたいのに、それと幸せは必ずしも結びつかないことを分かってしまった私は、正しくありたい理想と現実の差に納得するため、今度は自分に向けて言うのだ。「正直者は馬鹿を見る」と。

同書はそういう人におすすめしたい。なぜなら主人公の星野こそが馬鹿を見ている正直者なのだ。お人好しが祟って、近く死ぬより酷い目にあう予定の星野と、見張り役の繭美。星野の5人の恋人に、別れ話をしに回る珍道中に必ず読者は惹きつけられる。そして思う。「正しくあろうとしたなら、馬鹿を見るのも悪くない」と。

ヒーローのように劇的ではないが、真綿のように優しく心を救ってくれる。そんな一冊である。